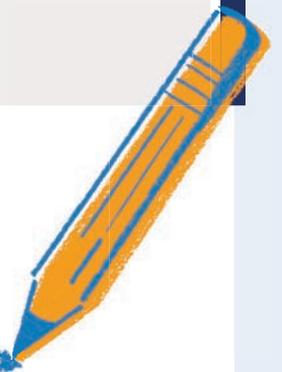


子どもたちを 議論の場に:

今日と明日(現在と未来)を設計
する子どもたち



本報告書の内容



これは何の報告書?	03
だれが参加したの?	04
基礎を築く: 参加は権利のひとつ ...	05
子どもの権利とは?	05
子どもたちの参加が意味することは? ...	05
子どもの世界を形づくる	06
平準化: 子どもの参加はすべての人のためになる	07
尊重されない子どもたちの声	08
解決の環	09
一つひとつ: 効果的な参加の構築 ...	10
子どもたちの有意義で倫理的な参加をかなえる9つのルール	10
子どもの参加への投資	12
政府への関与の構築	13
行動喚起	15



「従来の概念を超えてものを考える能力は、私たち子どもとユース
が持つ特別な能力です」。

Jimena、ユースリーダー、ペルー

これは何の報告書?

世界中で、自身にとって重要な問題に対して行動を起こしたいと考える子どもが増えている。今は、子どもが対面・オンラインで発言できる機会が増え、大人が耳を傾けることも多くなっている。

残念なことに、いまだ多くの子どもが、自国に影響を与えるような大きな決定に発言権がない。子どもに適した方法で参加できるよう、政府が十分な資金を提供していないことが、主な理由のひとつである。

Joining Forces*は、政府支出(別名: 公共予算)が子どもの参加にどう影響するかを明らかにしたいと考えた。

彼らは、子どもの公的な意思決定への参加の障壁は何か、改善点は何かを明らかにするべく、さまざまな国の子どもたちから聞き取りを行った。



意思決定の場において、自らの意見を表明する子どもやユースが増加しています。これは、多くの人びとや組織が意思決定の場に私たちを必要とするようになった結果です。

より多くの子どもとユースが社会に参加できるようになるにつれ、私たちは、参加し、意見を聞いてもらうことに対し、さまざまな困難にも直面しています。

多くの子どもとユースが、リーダーシップを発揮し、すでにコミュニティを劇的に変えきていることから、私には明るい未来が見えています。

私たちは、障壁が崩れ、全ての子どもとユースが、蔑まれたり、見下されたりせず、自由に意見を述べ、考えを表現できる日が来るよう、今後も活動を続けていきます。

Jimena、17歳、ペルー
National Alliance of Transformation Leaders代表



Joining Forcesとは?



Joining Forcesは、子どもの権利を擁護するために世界中で活動する6つの大規模なINGOの連合。地方・国・地域・世界レベルでの子どもの安全と有意義な参加を支援している。

だれが参加したの？

この報告書作成のためにJoining Forcesが聞き取りを行ったのは...



150人超
の子どもたち

年齢
12～17歳

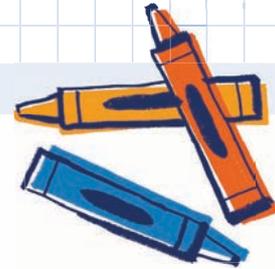
の7カ国

- エルサルバドル
- インドネシア
- ケニア
- ペルー
- フィリピン
- セネガル
- ウガンダ

子どもたちに尋ねたこと:

- あなたやあなたの仲間たちは、どのように意思決定に関わりたいですか？
- あなたの国では、自分たちの声が十分に反映されていると思いますか？
- 自分たちが参加できる機会を増やすために、変える必要があることは何だと思いますか？

あなたはどう思いますか？



あなたの国では、子どもの意見は尊重されていますか？

.....

.....

.....

参加温度計で測ると、あなたの国は何度くらいですか？
当てはまる温度を囲んでください。

低

中

高



基礎を築く： 参加は権利のひとつ



子どもの権利とは？

1989年、国際社会は結束し、子どもは自身の権利を有するとし、合意した。これは国連の子ども権利条約(UNCRC)に明記されている。全文の閲覧は[こちら](#)から。

私たちの権利は、世界中のすべての子どもが公平に扱われ、適切に保護されることを保証する。すべての子どもは、幸福で健康、かつ公平で安全に成長し、社会の積極的な一員となる権利を有す。

すべての人権は関連しており、等しく重要であり、決して私たちから奪われるものではない。各国は、子どもの権利を保護するために特別な措置を講じるべきである。



すべての子どもは、意見を尊重され、真剣に受け止められる権利がある。第12条、UNCRC

子どもたちの参加が意味することは？



子どもたちは、彼らが最善の方法で意見を述べることができるよう、支援されてる。

子どもたちの参加は、単発的なものではない。

子どもたちの参加は、選択肢のひとつではない。

大人が子どもに影響する決定を下す際は、必ず子どもの意見を聞く。

子どもたちの参加は権利であり、政府はそれを尊重し、保護する責任がある。

子どもの世界を形づくる

1989年のUNCRC採択以後、子どもは意思決定に参加するようになってきた。今では、あらゆるレベルのキャンペーン・政策・決定に関わっている。

子どもは自身の生活の専門家として、大人が考えつかない経験や考えを提供することができる。子どもの意見を考慮すれば、今日と明日がみんなにとってよくなるはずである！

地方・国・地域・世界レベルでの子どもの意思決定への参加を支援のために、多くの国が以下を開発してきた：



法律



政策



構造

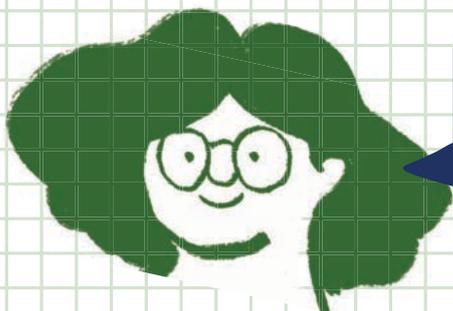


プログラム



以下は、子どもが意見を交換できるさまざまな場所の例である。

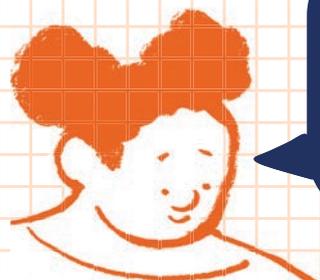
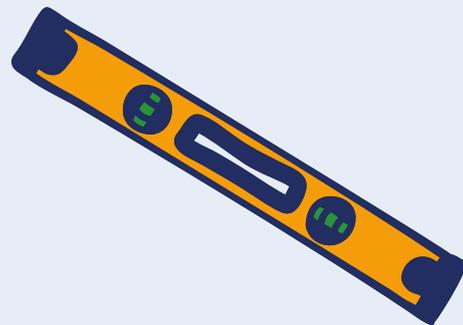
- フィリピンの子ども保護市議会のような、子どもと思春期の若者の協議会
- 地域・準地域・国家・地方レベルの子ども議会
- 子どもが法改正に影響を与えられる構造
- ペルーの子どもと思春期の若者の保護局のような地方自治体の委員会
- 国内外の「子どもの日」の祝賀行事や諸行事



「私はチョリージョに住んでいて、湿地帯の環境保護団体に参加しています。私たちはチョリージョとリマの市長と協議し、湿地帯の改善策を提案しています」
女の子、ペルー



平準化: 子どもの参加はすべての人のためになる



「子どもの参加できる場所はあまり見つかりません。例えば、私の村はムスレンバン(参加型計画プロセス)に子どもを参加させていません。参加できる話し合いの場はないです。今のところ、将来はムスレンバンに招待することを約束する、と言われただけです」
女の子、インドネシア



尊重されない子どもたちの声

有意義な参加のための大切なルールは、その子どもが誰でもこの出身かに関わらず、すべての子どもが参加できるようにすることである...

だが、疎外され差別されている子どもは、自分の生活に直結する意思決定から排除されることがほとんどである。



女の子



避難民の子ども



地方の子ども



保護者のいない
子ども



障害を持つ子ども



貧困下の子ども

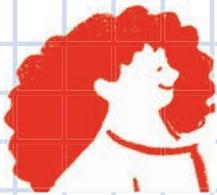
- 彼らは参加を促されないことが多く、促されたとしても、他の子どもと同様に参加するのに必要な特殊な支援が提供されない場合もある
- また、彼らは情報やリソース、参加の機会へのアクセスが制限されていることも多い



エルサルバドルでは、障害を持つ子ども、労働する子ども、移民の子ども、先住民の子どもは、子ども議会への参加率が最も低い子どもの中に含まれる。



ウガンダでは、大人の方が子どもより力を持ち、子どもの完全な参加を妨げている。家族やコミュニティは、子どもの声が重要、または聞く価値があると考えていない。ペルーでは、多くの人が、子ども議会は形式的なもので、意思決定に影響しないと考えている。



「私たちは大人が『お前はまだ若くて、世の中を全然理解してない』と言うのをよく聞きます。それは全くの逆で、子どもは自身に関わる問題について、大人よりも理解しています」
女の子、フィリピン



「大人たちが僕たちの意見の否定や批判を恐れるあまり、僕たちは課題に関する考えを表明できなくなってしまいます」
男の子、エルサルバドル



「話し合いの場に、他の子どもを代表するメンバーを公平に選ぶ方法が求められます。今は、誰が話し合いの場に行くかを決めるのは先生です。でも、私たちは自分たちの代表を自分たちで選びたいのです」
男の子、ケニア



あなたは どう 思いますか？

あなたの国で重要な意思決定へのあなたの参加を妨げるものはありますか？

.....
.....

あなたが参加しやすくなるように国ができることはどんなことだと思いますか？

.....
.....



解決の環

参加の構造や仕組みに対する
政府の長期的資金拠出不足

意思決定の場への参加に必要な
財政支援の不足

意思決定機会へのオンライン
参加に必要なデジタル・
インターネットアクセス制限

子どもは未熟だという
大人の固定観念

型にはまった、大人
向けの参加の場

自信・知識・情報の
欠如

参加の仕組みの
不備

子どもの意見を尊重
する意思決定者

経済的・実践的
支援

子どもの支援方法を
心得た大人の支援

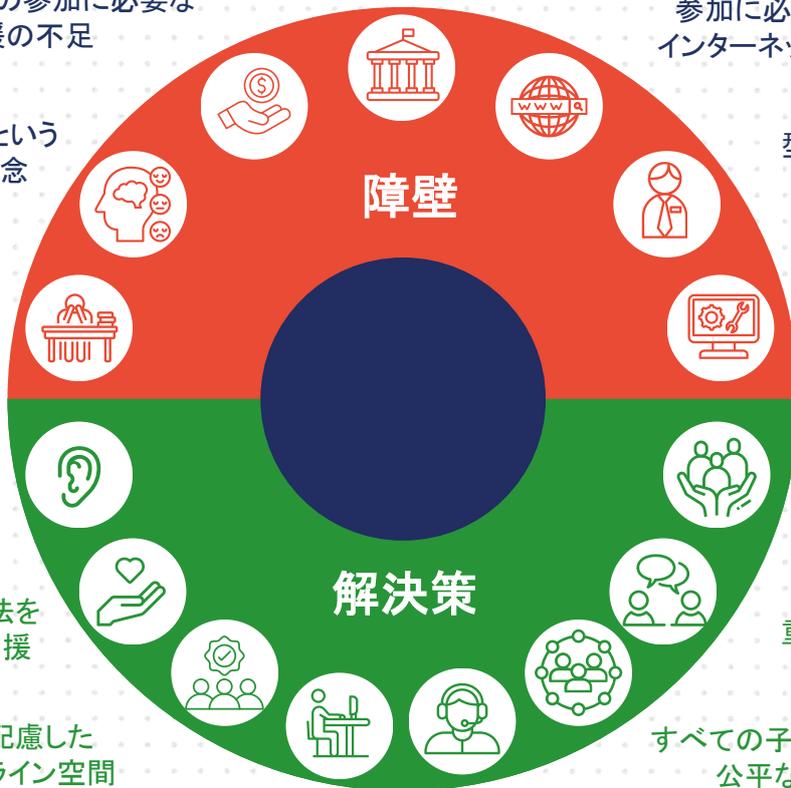
自分たちにとって
重要な問題に関して
発言する自由

子どもに配慮した
対面・オンライン空間

すべての子どもを対象にする、
公平な選出プロセス

知識・スキル・自信を習得
するための研修

子どもの参加がもたらした影響
についてのフィードバック



一つひとつ： 効果的な参加の構築



子どもたちの有意義で倫理的な参加をかなえる9つのルール

その実現のために必要なこと

高い透明性と豊富な情報:

- 1  私たち子どもは、自分たちの意見を表明し、それが尊重される権利があると明確に理解している。

適切な言葉や形式で、子どもが理解できる情報を提供し、彼らに関与の理由や、どんな変化を与えられるかを理解できるように努力すること

任意:

- 2  私たち子どもは、参加の判断を自身で下すことができる。

- 必ず私たち子どもに許可を求め、合意内容を理解しているか確認すること
- 子どもに参加を強制しないこと

意見の尊重:

- 3  私たち子どもの意見を大人も子どもも尊重する。

子どもを批判や差別なく、自由に意見を言えるように支援すること

関連性:

- 4  私たち子どもは、自身にとって重要な問題について議論し、自身の意見の重要性を理解している。

子どもが参加から何が期待でき、何が制約となるのかを理解できるように補助すること

子どもへの配慮:

- 5  私たち子どもは、年齢や能力に適した方法で、理解した情報や資料を基に参加する。

- 子どもに十分な時間と理解しやすいリソースを与えること
- 子どもが自信を持って発言できるように関与させること

包摂性:

6



あらゆるジェンダー・年齢・背景・能力の子どもたちに参加を推奨し、だれもが差別なく平等に扱われる。

- すべての子どもが参加できるよう支援すること
- 差別や不平等の影響を最も受ける子どもの意見に傾聴し、その意見を尊重すること

研修で支援:

7



進行役は、私たち子どもと効果的に活動できるよう研修を受ける。

- 子ども、特に参加への障壁が厚い子どもを含めたすべての子どもと関わるように意思決定者を含む大人を訓練すること
- 私たち子どもにも子どもの権利に関する研修や有益な知識・スキル取得の機会を与えること

リスクへの安全性と感度:

8



私たち子どもは、できる限りの安全の確保が守られていると理解する。

- 子どもの参加時に起こりうる虐待・搾取・その他危険等のリスクを早期に特定すること
- 子どもの安全を保障する明確な「危機管理」計画を定めること

説明責任:

9



子どもの意見がどう活かされたか、開発にどう影響したかの報告は、私たち子どもにフィードバックされる。

- 子どもがどう意思決定に影響を与えたかを、迅速かつ簡潔に子どもに伝えること
- 私たち子どもが質問やフィードバックの共有を主要関係者に求めることができること

対面・オンラインで子どもが参加する際は、常に安全性が優先されること!



有意義で倫理的な子どもの参加の9つの基本要件は、2009年、UNCRCを監視する専門家である国連子どもの権利委員会によって合意された。閲覧はこちらから。

子どもの参加への投資

子どもの参加を有意義で倫理的なものにするために必要なもの全てに投資すること!



予算 ✓

政府の政策決定者は、国・地域・地方の各レベルで子どもを支援する様々な活動の予算を確保し、子どもの参加を最優先する必要がある。

それらの予算は、突発的な財務問題や予期せぬ変更から保護されなければならない。
政府がすべきことは...

戦略的になれ!

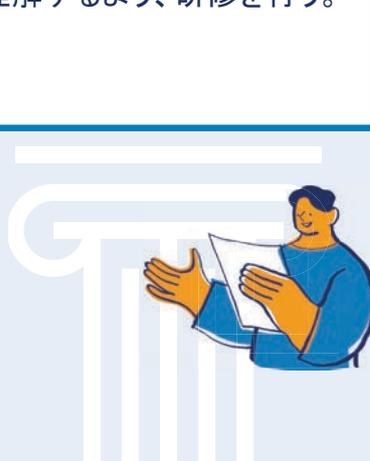
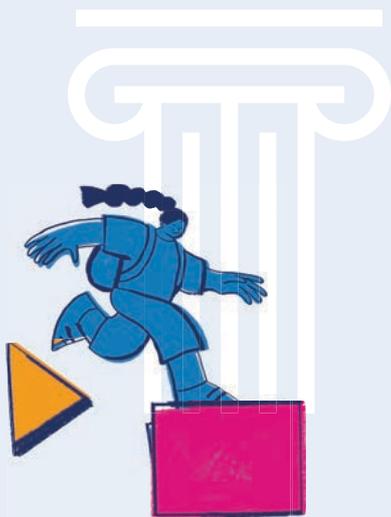
法律・政策・戦略・計画
における子どもの参加構造を
推進・強化する

動員せよ!

子どもたちの参加を支援し、自分たちに影響する決定を左右する権利があることを啓発する。また、子どもを支援する方法を大人が理解するよう、研修を行う。

リソースを提供せよ!

子どもたちが意思決定に参加するために必要なサービス、資料、設備等を全て用意する。



政府への関与の構築



法律・政策 ✓

政府は、自国の法律や政策における子どもの意思決定への参加に関する取り組みを記録に残さなければならない。

政府がすべきことは...

保証

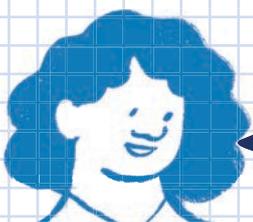
子どもは、他の子どもとの交流やグループへの参加、自由な意見表明、さまざまな方法での情報入手等ができる。

説明

委員会・子ども議会・議会・生徒会・オンラインプラットフォーム・その他組織への参加方法を教える。

確保

意思決定者に全ての子どもの声を伝えるために、多様で利用可能な手段を提供する。



「私たち子どもも、自分たちを守るさまざまな法律や政策を知り、十分な知識に基づいた意見を発することができるようになる必要があります」
女の子、ケニア





計画・プログラム



子どもの参加に関する国家計画や戦略は、政府の法律及び政策の施行にあたり、いつ何が起きるのかを説明する手段になる。



調整・コミュニケーション

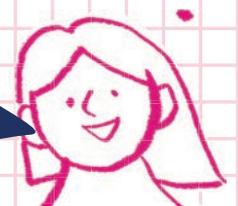


国から地方レベルまでのさまざまな政府機関が協力し、子どもの参加を実現しなければならない。市民社会組織、民間部門、そして無論、子どもたちも含まなければならない!

子どもが支障なく参加できるよう、皆が明確にコミュニケーションをとり、互いの話を聞くことが大切である。これは、異なる言語や情報の提示方法を検討することを意味し得る。



「全ての子どもと思春期の若者は一人ひとり異なり、コミュニケーションの方法も違います。例えば、ろう者や視覚障害者がコミュニケーションでき、参加できる方法を考えなければいけません」
女の子、ペルー



行動喚起

子どもの意見が尊重される権利の実現のために、各国政府に以下を求める:



1

国内法や政策が、子どもが自身に影響する決定に参加できることを保証し、意思決定者が子どもの意見を考慮することを保証する

2

全ての子どもが、対面またはオンラインで、自身の懸念・意見・提案を共有できるような、安全で利用可能な、子どもに配慮した空間を整える

3

全ての政府機関に十分な予算を充て、子どもが参加する場が既存のプロセスに統合され、効果的かつ長期間にわたり機能し続けることを保証する

4

意思決定に参加するために必要な知識とスキルを子どもに与える

5

公的な意思決定において子どもが有意義な役割を果たせるよう、子どもを支援するために必要な知識とスキルを大人に習得させる



「私は、政府・支援者・市民社会に対し、公的な意思決定に私たちが参加できるよう、真の安全な場の創出を求めます」

Jimena、ユースリーダー、ペルー